

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300406		
法人名	(有)ハートコネクト		
事業所名	グループホーム さくらの樹		
所在地	佐賀県鳥栖市袖比町2263-1		
自己評価作成日	令和3年3月15日	評価結果市町村受理日	令和3年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和3年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和2年11月に増床移転しました。「皆さんと共につくる 楽しいわが家 明るい家族」の理念のもと、弥生が丘でたくさんの方々に支えられた16年間の伝統を継続し、いつも明るく笑顔の絶えない家庭的な施設を目指しています。自然と皆さんがリビングに集い、様々な場面で出番があり、助け合いながら生活されています。今年度はコロナ感染症予防で、ご家族様、地域の方々、ボランティアの方々と交流は少なくなりましたが、出来る限り発信交流に努めています。希望によりターミナルケアも実施し、人生の最後の支援に携われる事の重大さを胸に、ご家族、医療機関と連携してチームで支え安心して最後を迎えられるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニット型として開設され、前ホームの温かみやおもてなしの心を継承しつつ、2ユニットならではのにぎやかさも取り入れ、より住み心地の良いものとなっている。また、ホームには、入居者や家族、職員、職員の家族、地域の方々それぞれに深い絆と役割がある。入居者は、時に母親や父親の顔、時に孫に向ける祖母の顔、時に友人同士の気さくな顔、時に人生の大先輩としての顔など、都度役割を担っていく。1人1人のやさしい思いと笑顔が集まり、大きな家族の喜びに繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	西館	東館		西館	東館
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(西館)	自己評価(東館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『皆さんとともに作る 楽しいわが家 明るい家族』を理念とし、運営方針と共に入社時に全職員に配布しています。玄関ホールの正面に掲げ、毎朝出勤時に目にし、意識付けする事で日常の支援に活かす事が出来ています。	『皆さんとともに作る 楽しいわが家 明るい家族』を理念とし、運営方針と共に入社時に全職員に配布しています。玄関ホールの正面に掲げ、毎朝出勤時に目にし、意識付けする事で日常の支援に活かす事が出来ています。	家族的な関わりを大切にし、入居者の笑顔を引き出すケアを心掛けています。職員は入居者に対し尊厳を持って接し、理念を日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	令和2年11月に移転しましたが、16年間、地域の方々に様々な支援を頂き、事業所を盛り上げて頂きました。お散歩がきっかけで野菜やお花を頂いたり、ボランティア様の訪問に繋がったりと交流が広がりました。	令和2年11月に移転したこともあり、ご近所のお散歩する事で新たに地域に馴染んでいくように努めています。区長さん、近隣の方々には開設前より都度挨拶に伺い、開設時には様々な相談をさせて頂く関係も出来てきました。	近所の独居高齢者のゴミを、より近場にあるホーム前のゴミ集積所にするなど、地域の高齢者支援の一助になっている。地域の方との関係作りは、始まったばかりである。	移転したばかりではあるが、前ホームで培った地域との関係を大切にし、引き続き新しい地域の方との関係作りの取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	移転前には説明会を開催し、地域の方々に施設の説明、認知症の方々の理解を頂くように努めました。今後も発信を続けていきたいと思っています。	近隣の独居高齢者の方のゴミステーション共有の案内を行ったり、困った時の協体制の声掛けにも努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症予防の為、開催は出来ませんが、資料を配布し意見も頂くように努めています。資料は写真付きで日々の生活や行事の報告を行うようにしています。	コロナ感染症予防の為、開催は出来ませんが、資料を配布し意見も頂くように努めています。資料は写真付きで日々の生活や行事の報告を行うようにしています。	感染予防のため家族や関係者に、ホームの状況や入居者の様子を写真付きの資料で配布した。また、電話等での意見も聞いているが、今年度は2回のみ開催である。	コロナ禍ではあるが、紙面配布等を含めた年6回の開催に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課の担当の方とはいつでも連絡相談出来る関係となっています。些細な内容についても丁寧に説明して頂き、助言も頂いています。移転開設時には来訪いただき施設内を案内する事が出来ました。	いつでも様々な相談をさせて頂くことが出来ており、人材確保についてもいろいろな情報提供を頂いたり、市主催の介護のお仕事フェアでもご協力を頂きました。	市役所や地域包括支援センターとは、ホーム移転時の情報交換や手続きなど、適宜相談した。また、ホーム開設の見学会にも参加し、市主催の職業相談会で入職した職員もいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から身体拘束について意識しながら、ケアに取り組んでいます。マニュアルや指針も作成し全職員で理解共有に努めています。	身体拘束に繋がらぬ場面では、安易な方法を取らないように、職員間で話し合い、ケアを工夫していくように努めています。	身体拘束マニュアルや指針の作成もされている。また、運営推進会議やケア会議時に身体拘束の勉強会を行い、言葉による行動制限にも留意している。身体拘束適正化委員会の設置や身体拘束の勉強会を行ったことの議事録は未整備である。	身体拘束適正化委員会の設置や3ヶ月に1回身体拘束の勉強会を行ったことの議事録の整備に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的にも精神的にも些細な事や言葉使い、接し方でも虐待に繋がらないかを日頃から注意し、見過ごされる事のないように職員全員で意識しています。	馴れ合いの関係となり、行き過ぎた対応とならない様に日頃から常に敬語で接する事で敬う心を全職員で意識付けしています。		

自己	外部	項目	自己評価(西館)	自己評価(東館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後必要性も出てくると思われしますので、積極的に研修会などに参加して理解を深めておきたいと考えています。	今後必要性も出てくると思われしますので、積極的に研修会などに参加して理解を深めておきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明から丁寧に行う様に努めています。説明時不安や疑問点が無いかを途中で確認し納得同意を頂けるようにしています。ご入居後も継続して、いつでも質問して頂ける様な雰囲気作りを心がけています。	料金改定時も事前に文書でお伝えし、また口頭で説明し、納得同意を得るように努めています。ご入居後も継続して、いつでも質問して頂ける様な雰囲気作りを心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会時はもちろん、電話でも報告や近況の連絡を行うように努めています。意見や要望も都度お尋ねする事も出ています。	普段からお話をしやすい雰囲気作りにも努め、意見や相談をお受けしています。意見や要望があれば、迅速に対応できるようにも努めています。	玄関先や窓越しの面会、電話、写真付きのお便り、手紙、検査結果等を送り、家族からの意見を聞いている。また、SNSを使い、遠方の家族にも近況報告を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、申し送りに限らず、普段から、いつでも意見を出しやすい環境となるように努めており、出た意見も迅速に話し合うように努めています。	全職員に業務内容で改善の箇所や困り事等のアンケートを取り、出た意見を会議で話し合い、業務内容の変更、業務に取り入れたい事など反映する事が出来ました。	会議での事案を元に、職員が主体的に業務改善を行っている。また、事前に検討事項を抽出し、会議の短縮にも努めている。日頃から職員同士、話しやすい雰囲気がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望に応じて無理なく勤務出来るように努めています。また、2020年11月に引き続き2021年1月にも給与引き上げを実施し、さらに向上心を持って充実した勤務が出来るように努めています。	年に2回程、職務自己評価シートで自身の仕事ぶりを振り返る機会を設けています。また、職員それぞれの得意な部分を活かせるような勤務になるようにシフト作成も工夫をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加も勤務扱いとする事で働きながら学べる環境となっています。また、職員一人一人に合った指導内容を見極め、トレーニング内容を検討したりするように努めています。勤務状況をみながら資格取得の為に研修も勤務の一環として費用も会社より提供しています。	外部の研修は、全体会議で報告、ファイルにしていつでも閲覧できるようにしています。また、職員間で得意な事、不得意な事を話し合う機会を設け、それぞれが補い学び合える環境も出ています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会にも加入しており、ネットワークを作り交流していく事で、管理者同士で相談し合える関係も出ています。	勉強会研修会にも参加し、それを通じて知り合えた関係からまた刺激を受け、活かしサービスの質の向上にも努めています。		

自己	外部	項目	自己評価(西館)	自己評価(東館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始までに可能な限り、ご本人にお会いして信頼関係を作り、様々な情報収集が出来るように努めています。また、利用開始後もしばらくは知り得た情報を記録に残し、介護内容の統一にも努めています。	ご本人との信頼関係作りと又、様々な関係者の方から可能な限り、情報を得るように努めています。知り得た情報も記録に残し、介護内容の統一にも努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談の時点からご家族の心配事や要望に細かくゆっくり耳を傾けるように努めています。まずは信頼関係を作ることで更にご本人の利用開始がスムーズになると思っています。	見学相談の時点からご家族のお話に耳を傾け、一番の心配事は何かを見極めるように努めています。早期に信頼関係が築ける様にし、スムーズに施設生活へと移行できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最優先されるべき支援を見極め、多方面のサービスも含め、いくつかの選択肢を提案するように努めています。	最優先されるべき支援を見極め、多方面のサービスも含め、いくつかの選択肢を提案するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩との意識を忘れずにケアを行う事を念頭において、尊敬を持って支援しています。昔ながらの伝統やしきたり知恵等を教えて頂く場面も多々あります。	職員はいつも尊厳を持って支援させて頂いています。職員のエプロンをさりげなく整え下さったり、他の入居者様のズボンのほつれを修繕して下さいとお互いに支え合う関係も出ています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居間もない方で入浴の強い拒否がみられる方は、施設に慣れられるまで一時的にご家族に協力を頂く事もありました、共に支え合う体制も出ています。	ご入居時にご家族に協力頂く大切さをお話しして、関係性を継続する事で、共に支えていく体制も出ています。コロナ禍で面会を制限させて頂く中でもサンデッキの窓越しの面会や電話支援を取り入れています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと行きつけの美容室に通われたりと、関係が続いておられる方もいます。出来る限り今後も継続していけるように支援したいと思っています。	住み慣れた近所を散歩し、懐かしい風景を眺めながら、また知り合いの方の名前を会話の中に取り入れる事で安心して生活が出来るように努めています。	コロナ禍前は、入居者の家族が別施設に移っても面会に行ったり、入居者の友人がホームに遊びに来ていた。現在は、玄関先や窓越しの面会、手紙や年賀状を送るなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で落ち着かれない方に声掛けをして下さったり、また入居者様の性格を把握してリビングの座席を工夫したり、良好な関係となるように努めています。	入居者様同士の性格などを把握して、また更に職員が介入する事で関係性が深まるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価(西館)	自己評価(東館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ボランティアで訪問されたり、野菜やお花、おやつ差し入れを届けてくださったり、又相談に立ち寄られたりと、様々な形で関係が続いています。	以前のご入居のご家族の方が移転のお祝いに来られたりと、いい関係性は続いており、これからも大切にしていきたいと思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を細かくお尋ねして、施設生活に反映できるようにしています。思いが表出できない方も今までの生活歴やご家族にお尋ねして本人本位に検討できるように努めています。	日々ケアをしていく中で、ご本人の思いを汲み取り、直接お尋ねする事で意向に沿った生活が出来るように努めています。	入居者には選択しやすく答えやすい問いかけを行い、入浴時の1対1の場面で意向を聞くことも多い。また、意向確認が難しい方は、家族からの話しや日々の会話、表情から思いを汲んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まず、ご入居時にたくさんの情報を得られるように努めています。ご入居後もお話される内容や行動などで得られた情報を記録に残し、全職員で共有、ケアに活かすように努めています。	まず、ご入居時にたくさんの情報を得られるように努めています。ご入居後もお話される内容や行動などで得られた情報を記録に残し、全職員で共有、ケアに活かすように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の職員同士で話し合い、お一人お一人の心身状態に応じて、臥床の時間を取り入れたり対応するように努めています。	入居者様それぞれのペースで生活されるように努めています。状態の変化があれば都度話し合い、実施その後の状態確認まで行うように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いやご様子、近況を毎月のホームダよりでお伝えしたり、ご家族来訪時も積極的にお話をする事で、様々な意見を頂きケアプランに活かしています。	積極的にご本人ご家族の思いや意見を把握し、全体会議で話し合い全職員で共有、ケアプランに活かすように努めています。ご家族よりご本人の趣味であった楽器を持参して頂き、プランに取り入れたこともあります。	入居者や家族の意向を把握しながら、看護、介護、個人記録を元に、ケア会議で話し合った事項をプランに反映している。また、入居者の特技や趣味を活かせるような支援をされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は24時間の時系列の書式となっており、時間ごとのご本人の様子や気分の変化も分かりやすくなっています。	勤務日の職員それぞれが記録を残すことで様々な気づきもあり、普段のケアや介護計画にも反映するように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人ご家族に相談をしながら、ニーズの把握に努め、また、医師、多方面にもアドバイスを頂き、様々なサービス、支援を受けるように努めています。	ニーズを把握し、ご本人ご家族に寄り添い、希望に応じて柔軟に様々なサービスを対応出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価(西館)	自己評価(東館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の知人、近隣の保育園、ボランティア、医療機関等、多方面からの訪問支援や交流をしていく中で、安心して生き活きと生活出来ています。	入居者様の知人、近隣の保育園、ボランティア、医療機関等、多方面からの訪問支援や交流をしていく中で、安心して生き活きと生活出来ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のご家族の希望や、身体状態に応じて他医療機関を受診できる体制も作っています。その際、施設側から対応も出来るようにも努めています。	現在はおられません、かかりつけ医に継続して通院していた方もおられました。その際は日頃の様子を細かに情報提供書で伝えるようにしていました。	月2回の往診があり、家族との情報共有も適宜行っている。家族対応の受診も、できる限り職員が付き添っている。また、皮膚科や鍼灸全体の往診もあっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を適所に配置して、日常的に医療面での観察記録を行い週1回の診察時にも反映し出来るようにしています。	看護職も介護職と同様の業務を行う事で、早期発見や介護職と話し合う機会も多く持つ事出来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の医療機関に入院できる体制も出来ています。主治医が変わらない事で、ご入院中の様子や退院までの流れもスムーズでご本人はもちろんご家族にも安心して頂いています。	ご入院中も安心されるように出来る限り面会するように努めています。医療機関との連絡もこまめにとり、双方の情報を共有する事でまた、現状の把握と早期退院に向けても努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時には重度化、終末期についての意向を確認していますが、状態の変化があれば都度医師より説明をしてもらい、そして都度確認、同意まで頂いています。経緯や結論も記録物で全員確認出来るようにし情報の共有にも努めています。	ご入居時に意向の確認を行っています。ホームで対応できる事、出来ない事を明確に説明して決めて頂いています。また、状態の変化時はその都度話し合いを設け、再度意向の確認を行っています。経緯や結論も記録物で全員確認出来るようにし情報の共有にも努めています。	家族と主治医と連携を図り、看取りを行っている。家族もホームに泊まり、最期を迎える方もいた。また、職員にも急変時の対応や連絡体制を共有し、不安軽減を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡体制はいつでも確認できる状況にしており、対応マニュアルも準備していつでも確認出来るようにしています。	定期的に救命救急士による心肺蘇生術の講習、実技まで行っています。対応マニュアルも準備していつでも確認出来るようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署と消防設備関係の方の立ち合いの下、消防訓練を行っています。コロナ感染症予防の為、今年度は通報訓練のみを行いました。	年に2回消防署と消防設備関係の方の立ち合いの下、消防訓練を行っています。コロナ感染症予防の為、今年度は通報訓練のみを行いました。	移転前は、地震の時近所の方が来てくれたり、避難誘導に詳しい方と一緒に訓練も行い、近隣住民との連携も取れていた。夜勤専従者の避難訓練はまだである。	近隣住民との連携と、夜勤専従者の避難訓練の参加に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(西館)	自己評価(東館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を常に頭念においてケアをすることで、言葉使いや丁寧なケアに繋がっていると思います。介助内容について職員間で話し合う事も出ています。	常に尊重し敬う気持ちで接することに努めています。プライバシーにも十分に配慮するように場面場面でも丁寧に対応できています。	入浴時にはタオルで体を覆ったり、トイレや自室に入る際も、ドアノックするなど配慮されている。また、ケア会議や面談などで、適切な言葉使いやケアの仕方など話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問に対しての返答がし易いような声掛けの工夫や意思を表出できない方は表情などで気持ちを汲み取るように努めています。また普段の何気ない会話や表情からもご本人の思いを引き出せるように心掛けています。	普段から遠慮されずに思いや気持ちを話して下さるように、優しい雰囲気作りに努めています。また、ご家族にも入居者様の場面場面での様子を伝える事で、さらに細かい情報やヒントを頂く事も出ています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはありますが、お一人お一人のその日の体調や気分に応じたペースに寄り添い、ゆっくり過ごして頂いています。	お一人お一人の健康状態を考慮して食事の時間に合わせた離床臥床、午後の休息の時間等、それぞれに生活のペースを作っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容ではカットだけでなく希望に応じて、パーマやカラーにも対応しています。また男性の入居者様には髭剃りの声掛けをして日常的に身だしなみの支援も行っています。	着ておられる衣類の話、髪型や美容の話を会話に取り入れれたり、毎朝の洗顔後や入浴後に化粧水やリップクリームもご自分で付けて頂く事で、おしゃれに対する心を忘れないような支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の能力に応じてつぎ分け、下ごしらえ、食器拭き等の出番があり、皆さんの楽しみ事にもなっています。入居者さん同士で下膳を助け合ったりする場面の見られています。食事は365日朝昼夕のメニューを決めており、ワンパターンにならないように工夫しています。	綺麗な色の陶器の食器、彩り豊かな旬の食材を食事に取り入れ、見た目でも楽しめるように工夫しています。旬の食材をご家族さんやご近所さんから頂く事もあり、早速、臨機応変に食事に取り入れる事も行っています。	入居者がおにぎりの作り方を職員に教えたり、家族からもらった食材と一緒に下ごしらえするなど、みんなで料理を楽しんでいる。また、外出時には、お弁当も作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が少ない方にはご家族に相談して、好みの飲み物を取り入れてみたり、ボカリを形態を変えて提供したりと柔軟な対応でも支援しています。	食事、水分摂取量はバイタルチェック表で総合的に管理しており、摂取量等変化があれば原因を追究し食事形態等を検討したり、医師に報告し、助言も頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを支援しています。また訪問歯科とも連携して希望に応じて相談、歯科医師、歯科衛生士の口腔ケアも受けられる体制を作っています。訪問歯科のアドバイスの下、ブラシの使い分け、スポンジの使用も行い、さらに細かい口腔ケアの徹底も出ています。	毎食後、個々に応じた口腔ケアを支援しています。拒否される方にはスタッフが一緒にジェスチャーで行う事により、少しずつ出来るようになりました。また訪問歯科のアドバイスの下、さらに細やかな口腔ケア実施できるようになっています。		

自己	外部	項目	自己評価(西館)	自己評価(東館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に個人個人の排泄パターンや入居者様の排泄サインを見逃さないように努めています。そうする事で積極的に紙パンツから布パンツへ、大パットから小パットへ移行し自立に向けて支援出来ています。	排泄チェック表を基に個人個人の排泄パターンや入居者様の排泄サインを見逃さないように努めています。出来るだけトイレで排泄できるように必要に応じてスタッフ2人で介助対応出来るようにも努めています。	排泄のパターンやサインを職員間で情報共有し、トイレでの排泄を促している。また、他施設から移って来た方が、家族とも相談し紙パンツから布パンツになる等、排泄の自立を促すことができた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には旬の野菜や繊維質の多い食材を取り入れ、またテーブル席には個人の水筒を準備し、いつでも水分摂取が出来るようにする事で自然排便を働きかける様に努めています。	排便の有無や形状の観察、排便コントロールをお一人お一人に確実にを行うように努めています。また、主治医とも相談して、ご本人に負担の無い範囲で下剤等を服用も支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午前午後の2通りの時間を設けています。入浴拒否の方に対しては、ご本人の心情を理解するように努め、声掛けや誘導のタイミングを見ながら対応しています。困難な場合はご家族にご協力を頂ける状況も出ています。	入浴は楽しみの一つでもあるので、お一人約1時間程度の入浴の時間を設けています。着替え選び、入浴、爪切り等、スタッフ1対1での対応でもあり、特にゆっくり会話が弾む時間ともなっています。	個浴やリフト浴がある。入浴を希望されない方でも思いに寄り添い、家族にも誘導や洗髪をお願いし、入浴しやすい雰囲気を作っている。また、入浴時のゆったりした中で、入居者の思いや相談事を聞く時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜の睡眠の状況やその日のご本人の体調に応じて、日中も夜間の睡眠に支障のない程度で個別に臥床の時間を作り、休息して頂いています。	夜間は希望に応じて、入床前にホットパックで足元を温めたりして、スムーズに入眠されるように支援しています。入眠時はパジャマに更衣し、朝起床時に新しい衣類に着替える等基本的な部分も声掛けして、生活にメリハリも出ています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時はスタッフ2名で指差し確認し合い、さらにチェック表でも確認する事で、誤薬、飲み忘れを防止しています。また、薬剤情報はいつでも確認できるように個別ファイルで保管し、追加臨時薬も薬剤師の訪問時に確認をするようにしています。	服薬介助前にご自身のお薬を目にし、ポケットに入れてしまい探した事がありました。対策として直前まで保管庫から出さずに介助するようにしています。また、薬剤情報はいつでも確認できるように個別ファイルで保管し、追加臨時薬も薬剤師の訪問時に確認をするようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や生活歴を把握し、場面場面で能力を発揮し、出番を作るように努めています。また、誕生日会で楽器を披露して頂いたこともありました。	お一人お一人の出来る事などを把握し、生活の中で出番が出ています。実際、行えなくてもその場面にいる事で感じて頂くようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ感染予防の為外出は出来ませんが、以前は毎月ランチ外出、お花見外出を行っていました。外出先も入居者様の希望に応じて決めたり、個別にはご家族の方にもご協力を頂きながら、外出支援を行っていました。	日常的には施設周りを1周出来るサンデッキのお散歩、近所のお散歩を取り入れ、外気に触れ、日光浴を楽しむ事で外出気分を味わい季節を感じて頂くようにも支援しています。	ホーム周りのサンデッキでの日光浴や散歩を行い、ドライブや花見もしている。また、近所を散策し、見晴らしのいい田園風景を眺めている。サンデッキでのバーベキュー大会も計画している。	

自己	外部	項目	自己評価(西館)	自己評価(東館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かり金がある事を伝え、いつでも希望の物を購入できると声掛けするように努めています。現在までに使用する機会はありませんでしたが、今後外出の際は使用できるように支援していきたいと思っています。	ご家族ご本人と相談の上で、少額のお金を持っている方がいらっしゃいます。その旨を都度伝える事で安心されています。現在まで使用する事はありませんでしたが、今後外出の際、使用できるように支援していきたいと思えます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠方のご家族さんからの電話、ご入居間もない方のご家族からの電話や手紙もスタッフがサポートしながら理解して頂く事で喜び、安心して生活されるように努めています。	ご家族と手紙、電話のやり取りをスタッフがサポートする事で、理解しやすく喜んで頂いています。ひ孫さんからの手紙や似顔絵は大切に居室に飾りいつも眺める事で繋がりを継続しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境作りを心掛けています。リビングテーブルにはご家族やスタッフから届いたお花を飾り、季節感を味わって頂いています。また、毎月の制作にも様々な工夫を凝らし、リビングの飾り物共々季節感を味わっています。	リビングにつながるキッチンからは調理中の音や匂いから生活感を味わう事が出来、自然とキッチンスタッフや入居者様同士で会話も生まれています。また時間を決めて換気し、天候や気温に応じた温度管理、日差しの調節にも気を配っています。	サンデッキの窓から暖かい陽光が入り、和室兼ステージには雛人形が飾られている。入居者の誕生日には、ステージで職員の小劇が行われる。また、職員は日々感染対策を行いながら、足音や食器を洗う音にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル、テレビ前のソファ、リビング横の畳み等それぞれの空間で思い思いに過ごして頂く事が出来ており、また自然と定位置の居場所も出来る事で利用者様同士の会話にも繋がっています。	リビングのテーブル、テレビ前のソファ、リビング横の畳み等それぞれの空間で思い思いに過ごして頂く事が出来ており、また自然と定位置の居場所も出来る事で利用者様同士の会話にも繋がっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居間もない利用者様にはご自分の描かれた油絵を持参頂き、自室、共用の空間の目にする場所に飾って安心材料になるように工夫しています。	ご自宅で使用されていた馴染のたんすや置物等、積極的に持参して頂くことでご自宅に近い空間が出来るようにご家族と相談しながら居心地の良い空間となるように工夫しています。	居室内は明るく、壁のボードには入居者や家族の笑顔の写真が飾られている。また、前のホームや自宅から来た方にもベッドや家具を同じように配置し、布団敷の希望にも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立した生活が出来るように施設内はバリアフリーで見守りしやすい造りとなっています。トイレの場所、自室の場所には分かりやすく案内板や写真付きの表札も作っています。居室のコルクボードにはご家族の写真、ひ孫さんからの手紙も飾りいつでもご家族を感じることが出来ています。	11月の移転の際は、居室内のベットの位置、窓、出入り口の方向、居室からトイレの方向等、出来る限り変わらない環境作りを工夫しました。居室のコルクボードにはご家族の写真、ひ孫さんからの手紙も飾りいつでも家族を感じることが出来ています。		